

2025年3月28日の日本経済新聞朝刊「交遊抄」に当社代表取締役社長執行役員・村田 潔が寄稿しました。

「交遊抄」は日経新聞朝刊の文化面に掲載中のコラムで、親交の深い人物との交友録や随想を紹介するものです。

交遊抄

2人だけの同好会 村田 潔

「一緒に陸上をやらないか」。1975年に入学した水戸市立見川中学校でサッカー部だった私に声をかけてくれたのが、今は美術工芸家として個展などを開いている元教師の班目和彦さんだ。

勧誘のきっかけは水戸市の総合体育大会の100メートル走で2位に入ったこと。当時陸上部はなく私と先生だけの同好会でスタートした。徒手空拳だったが、先生の指導で私は同校初の全国大会に出場。憧れの国立競技場を走り準決勝まで駒を進めた。

先生は長距離ランナーで短距離を教えるノウハウはない。だが、指導者がいる近くの中学校と合同練習会を開いたり、「目標タイムを達成したらごちそうしてやる」とおだてたりとあの手この手で私の意欲をかき立てる。口癖は「苦しくなれば無駄な動きがなくなる」。この教えは後々まで生き、高校時代もインターハイ出場を達成した。

「元気にしてるのか」。卒業後年賀状のやり取りは続いていたが、3年ほど前、突如私に電話をかけてきてくれた。先生の担当教科は美術。今は金属とガラスを融合させた伝統工芸「七宝焼」に情熱を注いでいる。自宅に飾っている作品をみると先生から叱咤激励されているような気がする。

(むらた・きよ) 〓 帝国電機製作所社長

2025年3月28日 日本経済新聞 朝刊